

## 「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた学校改善

### 取組

#### 4 教員の資質・能力の向上 ア 日常実践に直結する校内研修の促進

ICTを活用した教育活動の一層の充実に向けた準備業務の効率的な推進が必要となったため、教務部は今年度の方針・年間計画の作成、学力向上推進部は授業改善に係る業務の推進、情報教育推進部は1人1台端末の機能の利用方法の説明、端末の管理とするなど、分掌業務の明確化を図り、誰が何を行うかを細分化して提示した。また、今年度の研究において、1人1台端末の使用アプリを明記した児童生徒の発達段階に応じた指導計画を作成し、特に必要な機能を示したことにより、教職員の研修内容が焦点化された。教職員に1人1台端末の活用に必要な知識や技能が身に付くよう、スモールステップで反復して研修を行ったり、ICT支援員を利用したりした。

### 成果


役割を明確化したことにより、校内研修の充実が図られるとともに、ICTの活用により、これまで以上に「個別最適な学び」と「協働的な学び」を意識し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進するための校内研修を円滑に進めることができた。

4 教員の資質・能力の向上 ア 日常に直結する校内研修

- ・児童用パソコンの機能を重点化し、日々の授業に利用できる研修体制の構築及び実践を行う。
- ・計画的な放課後のテーマ研修・ミニ研修を実施する。

今年度の研究主題  
主体的に取り組み  
学びを活用できる子どもの育成  
～児童用パソコンの活用を通して～  
→そのために必要な児童用パソコンの活用方法などについて、研修を重ねていく。

児童用パソコンの活用に関わる研修  
一研修の様子  
今後も計画的に研修を進めていく。



・全教員が年1回以上授業を公開する。  
・学校評価の関連評価項目において、肯定的回答の割合を85%以上となるようにする。

### 【校内研修の促進】

# 質の高い教育活動を持続的に行う働き方改革の実施

## 取組

### 2 組織体制の構築

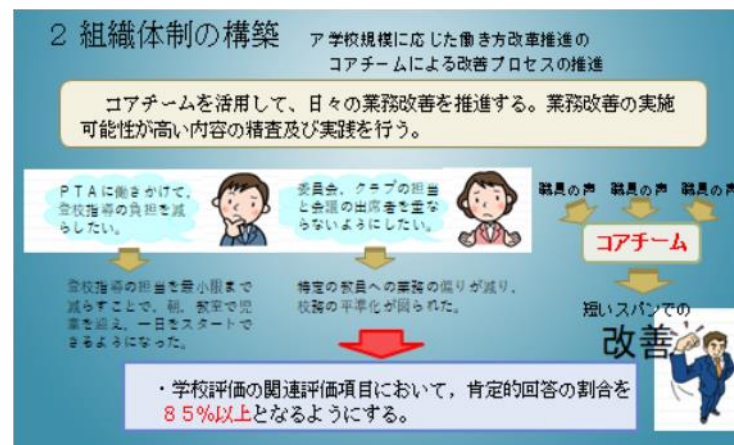
ア 学校規模に応じた働き方改革推進のコアチームによる改善プロセスの推進

業務の効率化に向けて、業務改善までの行程を明確化し、校務調整委員会（コアチーム）を中心として、業務の縮減・削減を図ることができる内容を短期間で審議、決定することができるようにした。

行程としては、C4th（校務支援システム）を利用した教職員による改善要望の集約を行い、それをC4th（校務支援システム）会議室で時間に束縛されずに議題としてあげて、全職員に周知する。その要望・意見を管理職で確認して校務調整委員会（コアチーム）の審議を得て、校長が決定する。その橋渡しは主幹教諭が行い、月1回の校務調整委員会（コアチーム）により、短期間で業務改善を進めてきた。

## 成果

教職員個々及び学年団、校務分掌等の組織の中で表出した思いや願いを確実に捉え、短期間で改善すべき内容を検討して回答する仕組みにより、意見を傾聴してもらえることによる心理的安全性が高まり、業務への負担感の軽減につながっている。



【コアチームによる業務改善】